

(仮称)鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ

第7回ワークショップ会議録

日 時：平成24年3月17日（土） 10：00～12：00

場 所：鎌倉市役所 第4分庁舎 811会議室

参加者：公募市民：13名 関係団体：10名 計：23名 傍聴者：16名

ファシリテータ：齋藤 潮氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

ファシリテータ補佐：橋本政子氏

（東京工業大学大学院社会理工学研究科齋藤研究室）

事務局：鎌倉市市民経済部産業振興課

花上課長、加藤課長補佐、根本事務職員

（財）漁港漁場漁村技術研究所

大塚職員、田島職員、早川職員

東京工業大学大学院社会理工学研究科 齋藤潮研究室院生 4名

プログラム

第1部

- ① 第6回ワークショップで出された意見
- ② ワークショップ「中間報告書（案）」について

第2部

- ③ 今後のワークショップの在り方について

その他

- ④ 今後の予定など

配布資料

第7回ワークショップ 次 第

資料－1：第6回ワークショップでのグループワーク意見

資料－2：ワークショップ中間報告書案（3月2日版）への意見と対応案

資料－3：（仮称）鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ中間報告書（案）

資料－4：今後のワークショップの在り方について（事務局案）

第一部

① 第6回ワークショップで出された意見

「第6回ワークショップで出された意見」について、事務局の（財）漁港漁場漁村技術研究所田島職員から配布資料の「資料-1：第6回ワークショップでのグループワーク意見」により概要説明を行いました。

② ワークショップ「中間報告書（案）」について

「中間報告書（案）」について、事務局の産業振興課加藤課長補佐から配布資料の「資料-2：ワークショップ中間報告書案（3月2日版）への意見と対応案」及び「資料-3：（仮称）鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ中間報告書（案）」により説明を行いました。

その後、以下のとおり、意見交換が行われました。

F T：ファシリテータ（以下「F T」という。）の齋藤です。特定課題の議論を始める前に全体の流れについて考えてみたいと思います。まず、中間報告と報告書とはどう違うか、これは大きな問題です。事務局としては、来年度に向けて新しいテーマを絞り込み、特定の課題に向けて議論をしたい、つまり、それを盛り込んだ報告書となります。中間報告書は今までのワークショップ（以下「WS」という。）の概要を示すものであり、特定の課題についての個別研究を付け加えたものという考え方があります。また、中間報告書を精緻化して来年度に向けて報告書とする考え方もあります。悩ましいのは、前回WSあたりから、そろそろ新しいやり方でやってほしい、という意見や特定テーマについて必要に応じて学識経験者を招いて研究してはどうか、という意見もありました。我々が今、行っている課題は、報告書をまとめるという課題であるため、メンバーはこのまま継続し、必要に応じてテーマごとに学識経験者をお招きするなど、やり方を工夫して報告書に向けていく、このような方法が考えられます。

また、報告書がどのようなものかにもよります。報告書に必要なもの全てを書き込むことはできません。前にもご意見を頂いていますが、報告書に「我々はここまでやったが、こういう課題が残っているので、次のメンバーや行政に取り組んでほしい」と宿題を報告書に書き込むべきであるということもありました。我々にとって何を最終報告するかということがとても大事なことです。事務局と相談し、私の個人的な意見としては、この中間報告書をただ精緻化するだけではなく、新しいテーマに従って、必要に応じて専門家を招へいしてディスカッションし、

検討したものを付け加えて報告書とする。この方が皆さんのやり方としても刺激的だろう、という事を念頭においてください。

事務局の今日の仕事は、中間報告書を精緻化するにあたり、これで良いかという事です。来年度のスケジュールによっては精緻化するという作業は来年度も継続できるが、まず今年度、中間報告書が現段階でこのような報告書で良いか、について協議したいです。

まず、中間報告書を頂いた意見に基づき、こう直してはどうかということで事務局が対応案を出してきました。先程の説明にあったように「対応しました。」というものと「対応について皆様と協議したい。」というものがあります。まず「対応しました。」ということに対して、皆様のご意見を伺いたいです。事務局が要協議としたものについては、その後に協議したいので、よろしくお願いします。では「対応しました。」という事について、何かご意見がございましたらお願いします。(意見無し)

では、ここでは「対応しました。」という事については同意を頂いたということで、中間報告書はそのように修正されるということになります。

続きまして、事務局として、対応の仕方がわからない、皆さんの判断を頂きたい、と残っている協議事項について進めます。例えば、資料2「ワークショップ中間報告書案(3月2日版)への意見と対応案」について、②の「漁港にかかるワークショップ」ではなく「漁業と漁港について考えるワークショップ」というタイトルとしてはどうか。これは漁港だけではなく、漁業についても考えていますよ、と明記してはどうかということです。

次に⑧の「漁対協と本ワークショップが異なる前提で行われているので、その理解を深めるために、これらを対比した表を追加する。」について、提案者が表を作ってくださいました(配布)。このような表があったほうがわかりやすくなるのではないだろうか。このWSが鎌倉漁港対策協議会(以下「漁対協」という。)と違ったスタンスでやっているのだ、という事をきちんと出そうという提案です。

それから⑩の「2.2 成果の概要」を、もう少しわかりやすく、具体的(箇条書きなど)に記載してもらいたい。」ということについて、これはどの辺がわかりづらいかを含めて発議をお願いします。

次に⑯の構成がまずいのではないかと、という意見です。今回、事務局が新しく中間報告書を提出しましたが、この構成でもまだ修正が必要であろうかということにご指示頂ければと思います。

⑰の人命を守るという事が大事であり、その辺のところをきちんと書く

べきではないかという事です。これについてもご指示頂きたい。

最後に、⑱のグループワーク（以下「GW」という。）の成果を追加すべきだ、ということです。これは皆さんにご賛同頂ければ、すぐにでも対応できる場所です。どれからでも構いませんので、皆さんのご意見を頂きたい。皆さんのご意見については、いつものようにメモを取りますので、次の宿題として受け取って、事務局が対応しますので、皆さんよろしくお願いします。

参加者：②の名称について、募集において「(仮称)鎌倉地域の漁港にかかるワークショップ」となっているので、変える必要はないと思います。あと、⑰の鎌倉海浜地域において人命を守る事については、WSの主題から考えると、少し飛躍しすぎた考えだと思います。東日本大震災があったということで、今までの意見はかなり変わってきているとは思いますが、それは個人的な意見であって、WSの本題から外れてきているように感じます。というのが私の意見です。

参加者：今の意見に対しての私の意見です。一番の話題は、東日本大震災で著しく環境が変わったということは、WSとして敏感に受け止め、⑰の人命を守るという事を入れておいた方が、現実感があって良いと思います。

参加者：その意見はごもっともであり、私も賛同致します。しかし、漁港建設は決して賛同を得られずという部分は、意見的に飛躍しすぎているのではないかなというのが意見です。

参加者：この一文のまま入れるかは、考えるとして、これについては認識も持たれたし、議論もされたし、やはりこのことはある程度強調しておくべきではないかと思います。

参加者：私もその意見に賛同できるのですが、漁港を建設することにあたって、3月11日の地震以降、漁港建設も含めて防災対策をどうするかという事が、大きな課題だと思います。

参加者：このWSを7回やってきたことは、原点的には、鎌倉に漁港があったほうが良いのか、あるのならどの様にしなくてはいけないのか。その辺がスタートだから、行政がそのタイトルにて衆知を集める、というのがスタートのはずです。そして先程、鎌倉漁業協同組合（以下「組合」という。）の方に配っていただいた新年号のフィッシャーマンズ通信ですが、7回やったことの結果が出ているじゃないですか。「私どもの悲願である漁港建設をもっと大きな視点で考えるというきっかけになりました。漁港建設が鎌倉市民の皆様にとって、どんなメリットとなるのか、そのことによって市民全体が豊かになる方法はなんなのか、という点が重要」

なのだと。あとは「構成メンバーの増減、入れ替えで、その趣旨にそって意見交換したいということ、私は希望したい。」と、組合がこのようなことを言っている。これは、今後WSを行う上での大きな枠ですよ。それから、行政が予算使って概念論的なことをいつまでも喋っていると税金の無駄です。そんなものは、手弁当で概念論の会合を開けば良い。ですから、ここに書いてあることを、大きな視点とは何と何なんだ、という事を列挙することをもって、それらを包含的に考えながら、漁港というものにどういう可能性があるのか、かなり具体的に突っ込んでいくのが、今年の課題だと思います。それともう一つ行政に伺いたいのは、予算審議の議会中ですが、予算書を見てもらえばわかるのですが、平成24年度の予算ではWSが何回開けるのですか。

事務局：予算要求しているのは400万円です。平成23年度は540万円です。やり方次第ではあるのですが、回数は今年度よりは少なくなりそうですが、それでも5回程度は開催したいという予算です。3月22日に予算が正式に決定する予定です。

参加者：市民会議で良く使われるのは、メーリングリストですが、日曜日に出席できない人達もいるので、そういう人達に連絡をしたり、また、こういう場になると、どうしても行政が主体となって進めていくので、メーリングリストで色々な人が活発に意見を交わせるのが良いのではないかと、思います。今後はメーリングリストの活用ということも考えてほしいです。

F T：中間報告書案を精緻化するためにどのようにしたら良いか、という話の中で、事務局が皆さんの意見に対してどう協議すべきかについて、皆様のご意見を伺いたいと思います。

参加者：中間報告書（案）のうち成果の概要について、わかりにくいという指摘があり、中間報告書（案）のP6では概要が二つになっている。「漁業者と漁業関係者以外との意見交換」と「水産業の将来ビジョン」、この二つは確かにそうなのですが、P7のワークショップでの意見の六点は私の認識ですと、これこそが成果です。この六点を成果の概要として示して、それ以降で成果について詳述する構成にするとわかりやすいのではと思います。

次に⑰の人命を守る、ということについて、私は地域住民であり、周辺の特に主婦、子供を持つ親の方から、人命を守ることが第一優先ではないか、という意見をよく聞いています。ですから「地域住民からすると」というただし書きでも良いのですが、そういう文言は入れたほうが良い

と思っています。具体的には P7「2.4 漁港建設について」のところですが、4行目「被災地震災復興支援の必要性などから」のところに「地域住民が現時点では人命を守る施策を優先してほしい、という意見も多いことから、現時点では、困難と言わざるを得ない。」と付け加えると良いのではないかと、思います。

長くて申し訳ありませんが、三点目です。⑧の対比表を付け加えた方が良いのではないかと、という点です。これは非常にわかりやすく整理されていて、後から漁対協とWSが何者であったのか、を理解する上でわかりやすいと思うので、是非付け加えて頂きたいと、思います。

もう一つ、中間報告書の位置付けですが、なぜその意図、その位置付けになるのか、を後ほどで良いので説明頂きたいと思っています。要は、今年度、何回かWSを行って、かなりきちんとした議論をして、一定の結論は出たのではないかと、思っているの、あまり中間とか暫定的とかいう色を出さずに、今回のWSではきちんと議論がなされたということは、広く明記した方が良いのではないかと、思います。

もう一つ、中間報告書の公開の方法と範囲についても、明記した方が良いと考えています。ホームページにもアップして、皆さんこれ読んでくださいという様に広く呼びかけるのか、または希望者だけが市役所に来れば文書が読めます、とするかで違ったものとなると思います。市民の理解を得るというところで、その点についても、ご検討なり明記を頂きたいと、思います。

F T :ただ今、個別修正について意見がありましたが、それに対してご意見はありませんか。ご意見なければ、そのようにしたいと思いますが。

参加者 :⑧の表について拝見すると、関係がとてもわかりやすくなっている。それ以外にもWSの名称等が簡潔に示されており、とても理解を助けるものになっています。表というのは、簡単に概要を把握する上での良いツールだと思います。だからこそ、こういうものを報告書に付ける上では慎重にならざるを得ないです。これを報告書に付けると、取材時にこの表だけ使用され、一人歩きする危険性を踏まえ、もし表を載せるのであれば、しかるべき検討が必要であると思います。これを作られた方が、どなたで、どういう意図で作られたかわかりませんが、もし載せるのであるならば全員の承諾を得て載せる必要があると思います。

参加者 :⑯の防災に関する意見がいくつか出ていましたが、気を付けなくてはいけないのは、漁港が先か、防災が先か、という事に論点を集約してしまう危険性があるように思います。漁港建設や防災のために何らかの堤防

を造るということはハードウェアなわけです。そのハードウェアの優先度からいうと、防災が先であろうという論理も理解できるのですが、今WSで論議されているのは、むしろソフトの部分です。漁業を主体とした鎌倉の第一次産業をこれからどの様にしていくのか、とかあるいは、それに市民がどう関わっていけるのか、という事から論議し、結論として、やはり漁港が必要なんだ、ということになれば、そこからハードウェアを考えるという流れになっていると思います。ですから、ハードウェアとソフトウェアの間をきちんと分けて、ハードウェアのことだけで漁港建設を後回しだ、という結論にしてしまわないようにしてほしいです。例えばハードウェアのことが優先される。津波対策で何らかの工事が行われる。そういう時に、例えば、そういう大きな予算を使って、何か大きな、防潮堤を造るような工事が行われるのであれば、それをさらに有効に、鎌倉の産業振興のために使えるような形はないかと、その時に、それと連携して漁港の整備はできないか、ということは論議できると思うのです。なので、あまり安全が先か、漁港が先かと単純化してもらいたくはない、というのが組合からの希望です。

F T :他にいかがでしょうか。

参加者 : WSの中でも何回も議論があったと思うのですが、漁業者の方が船の出し入れに苦労されている、とか出たと思います。例えば、津波で人が死なないようにするとか、という事だけではなく、命となると大きくなってしまいますが、安全ということを考えてとき、漁業者の安全の為にできることは、WSの結論を待つまでもなく着手すべきではないか、という意見も出た時があったと思います。そういう視点、その結果が漁港だけではないという意見も出たことがあったと思います。そういうところが、この報告書の中にあっても良いのかな、と思います。

それから予算ということで、箱物ありきといったハードウェアは、もちろんあるのですが、鎌倉の土地の状況・現況を見ますと、箱物を造るということは、なかなか難しい面もあると思います。それから今回の震災を見て、どんな大きな堤防を造っても、必ず自然災害はそれを乗り越えてくる。なので、防災よりも減災という言葉も出ている状況ですが、例えば、鎌倉の海浜地区に津波の時に、観光客も含めた避難指定ビルがあるのかどうか、それが周知されているのかどうか。また、現在の建物に何らかの手を施せば、そういったものとして使えるのかどうか、という様な、地に足のついた議論というか、スタートはその方が良いと思う。そういった施策が必要であるというのが、どこかにあっても良いのかな

と思います。ただ、ご意見があったように、このWSの究極の目的はそこではなかったんじゃないか、という意見は賛同いたしますけど、今回のような環境が激変した状況の中では、そういう視点があっても良いのではと思います。どの項目に、どう入れるという具体的なことは言えないのですが、強いて言えば P9「3.1 漁業が抱える問題への理解」のうち黒丸部分、漁業者が過酷な労働を強いられている、という部分があるのなら、それに対して、どうするべきだという事もあって良いのではと思いました。

F T : 議論を振り返ると、タイトルを変えてはどうかという意見については、元々の募集要件として「漁港」ということでやってきたし、内容的に「漁業」にかなりシフトしているということもあったが、「漁港」で良いという意見がありました。また「漁業」を入れた方が良いという意見が出ましたが、これについてどうでしょうか。

参加者 : 漁業を追加しても良い。

参加者 : 追加して良い。事務局も少しだらし無いと思う。ここまで話してきて、一つ二つ新しい主題が加わっている。

参加者 : 募集時には「(仮称)」でした。これが議論の中で、これが漁港だけではない、漁業について考えるWSになった、という事を事務局で一言書き加えて、修正意見のタイトルにしたらどうでしょうか。

F T : 先程「漁業」を追加する必要はないのではないかと意見がありましたがこのことについて、改めて意見はありますか。

参加者 : 次年度は、産業振興課はどのようなコンサルタントを選定するかで条件は変わってくる。それによって、開発論なのか、文化論なのか、安全対策論かもしれないし、それに対し我々がどう動くかわ変わってくる。ただなんとなく、今の状態で東工大の先生方をお願いして、少し目線を増えた中でやっていこうというのが産業振興課の姿勢ならば、それはそれで仕方がない。

F T : 追加するというところに、それはおかしいという意見が一度ありましたが、賛同が得られれば、「鎌倉地域の漁港と漁業について考える」と。

参加者 : 漁業を加えるのは異論ないのですが、もう一つ「景観」という言葉も加えて頂きたい。

参加者 : ハードウェア、ソフトウェアという点で「漁港」「漁業」が良い対比になっていると思います。漁港というハードウェアの中に、景観や騒音などハードウェアに関わる問題があり、漁業というソフトウェアの中に第一次産業や観光などをこれからどうしていくのかなど、これからのビジ

ョンの問題が入ってくるという意味です。「漁港」と「漁場」というタイトルに賛同したのはハード、ソフトを両方考えていこうということ。関係する言葉全てを列挙するとタイトルが長くなるだけで、ここは、二つのタイトルで良いのではと思います。

参加者：私の真意はそこで、タイトルを列挙するのではなく、「漁港」という一つの言葉の中にハードウェア、ソフトウェア、その他全てを含んだらどうか。

参加者：ただ、今までの漁対協がやってきたことが大きなイメージとして、皆様の中にあります。漁港を造る事が先決だというハード先行のイメージであったものが、この半年で10か月のWSの間にハードだけでなく、ハードとソフトの両方を考えていかななくてはいけない、という様になったのは大きな成果だと思います。そういう意味で「(仮称)」だったものを論議の中で変えていくのは良いのではないかと思います。

参加者：言葉を増やすと、逆に範囲が限定されてしまう。だからなるべく他の言葉は省いた方が良くと思います。

参加者：「漁港」よりは「漁業」のほうが幅広くとれると思います。

参加者：「漁港」というと一部に焦点が絞られてしまう気がします。

参加者：市民のための漁港のスペース等、市民開放等も議論されていると思うので、そこを漁業のための漁港にしてしまうと、また最初に戻ってしまう感じがします。

参加者：逆に「漁業」と入れると、市民が漁業を批判しているイメージになってしまいます。「漁業」とすると漁業全般を広く見てしまうのではないかと思います。シンプルにする点でも「漁港」で良いのではないかと思います。

参加者：シンプルにする点でも「漁港」で良いのではないのでしょうか。

参加者：「漁港」だけでは何も知らない第三者が漁港を造ると勘違いされてしまいます。

参加者：賛成・反対含め注目してもらおうという点では、それはそれで良いと思います。

参加者：賛成・反対の極論になってしまうから「漁業」と「漁港」がわかりやすいと思います。

参加者：「漁業」と「漁港」くらいならシンプルで良いと思います。先程あったように「(仮称)」から変更した旨をただし書き追記するのも良いと思います。また「漁業」と加えることでソフト面での議論も多かったとわかるので私は賛成です。

参加者：私は中間報告書のこと絡めて、ちゃんと考えた方が良くと思います。正確にいうと、このWSは漁港のことから話しは始まっているので、今回は「漁港にかかるワークショップ」。次回からは漁港にかかるWSの中で、ハードウェアとソフトウェアや第一次産業について考える必要があったので、次回から「漁業と漁港にかかるワークショップ」などになるのが筋だと思います。そこを事務局がどう考えるか。中間ではなく漁港についてはこういう意見が出た。次からは漁業について考えるというのが筋だと思う。

参加者：皆様がおっしゃっている事は、全部一緒のような気がします。事務局一任で良いのではないのでしょうか。

参加者：市民の目線がなおざりになり始めている。当初、市民の立場から色々な発言があった。市民にとっては、昨日・今日の議会を見てもわかるように、プールのところの後背地のところを含み、意識しながら、ものすごく津波が来た時の事を議論している。それから、旧県営駐車場は非常にデットスペース同然ですよ。プールの横に1万坪の民有地が実はあった。そして公園というネットはかかっているが、とても公園とはみえない、だらしない野原になっている。そういった、景観も漁業も全て包含して、坂ノ下整備構想というものを僕は考えようとしている。それは、市民が主体の会議です。そしてその中に、今言ったようなことを検討しながら、じゃあ、全体ができるためには、生業としている漁業のために、漁港、船着場をきちんとしてやろうじゃないか、と僕はもっていくことによって、大きな金が動くときに、はじめて民の金が入ってくるというのが、私の持論です。漁港だけを一生懸命議論していると、20億円から25億円かかってしまうのが普通なので、それを、1億円から5、6億円とれるという話らしいのですが、それから経済効果のこともでてくるし、総論的にどうやって枠を構えるかが、市民みんなの目線がそこに収斂すると、僕は考えています。

F T：色々伺いましたが、皆様の意見にそれぞれ理があるということです。これは多数決で決める事ではありませんので、先程も誰か発言した様に、事務局で皆様の意見を吸収した上で、こういった理由でタイトルを決定したい、という事を再提案したいです。よろしく願いいたします。

次ですが、漁対協の流れと本WSの流れについて、対比表を作って頂いたのですが、こういうものを掲載すると、大変わかりやすいというのは、皆様の認識は一致しています。ただ、便利なので、これだけが抜き出されて流出した時に、皆様が困るという事はないだろうか、という事を含

めて議論した方が良いのではないか、というご提案なのですが、これについてどうでしょうか。

参加者：検証する必要があるという意見はごもっともです。内容は、私が作りましたが、あえて意見や解釈などは排除し、過去の資料に書いてあったことをピックアップしただけです。根拠を示せと言われれば、示せますが、膨大な資料があり、何ページの何行目と示しても仕様がなないので、内容の検証は、市役所の方にお任せして、明らかに違うものであれば直して頂いて結構です。作り手としては、書いたものは過去の資料のピックアップでしかないことを確約します。

F T：客観的事実を列挙して作成したということなので、皆様に見て頂き、違和感があるとすればご意見頂きたい。その上でご意見がなければ、便利だということはおわかっているので、事務局として表の掲載について詰めていきたいです。今の段階でご懸念はございませんか。

参加者：この様に対比されると、漁対協がやってきたことを全て否定している様に見えます。「こっちが悪い人、こっちが良い人」みたいに見えます。そうではなく、漁対協の皆様も過去何十年も苦勞しています。ただ、その時々の時勢というか、水産業というのは行政の指導の下、今の姿があるわけですが、ここ十数年、変わってきている。もっともっと、独自の目線で、自分達の漁業を考えていかななくてはいけない、という時に来ていると思います。

また、市民と行政の関わりも、例えば、市民参加や様々なNPOが参加することで変わってきています。その流れがこのWSになっている。確かにWSのほうが民主的でよろしいという感じですが、漁対協は全否定する対象なのかというと、決してそうではなく、こういう流れの今のWSがあるわけですから、これはどこかに一言注意書きをしてほしいです。それでないと、漁対協の今まで苦勞されてきた方に、大変申し訳ないという気がします。

事務局：漁対協とWSの事務局の両方をやっており、色々な方からかなり熱心に議論していただきました。私は表を見比べた時に、漁対協がWSに移行した経緯を含めて、コメントを加えさせていただいた方が良いと思います。そうしないと漁対協の委員の方々は、事務局がお願いした事に真剣に取り組んで頂いていましたので、その辺の流れをきちっと説明しないと、漁対協の方々も納得しないと思います。決してWSと漁対協が対立するというわけではありません。同じレベルで考えていく方が、WSが建設的で、漁対協を否定しているわけではない、という事を報告書に記

載した方が一般の方が見た時にも良いと思います。また、項目としてこれだけで良いのかということと、最後の漁港建設の必要性についての結論という箇所は事務局として、少し気になる書き方と感じたので、相談させて頂いて、事務局の方で責任をもって事実を確認の上、修正をさせて頂きたいと思います。

参加者：皆様の言う事はごもっともであり、私の方でも、作るとすればこんな風かといった素案ですので、確かに乱暴なところはあります。本来の漁対協、WSの結論がそれぞれ違った方向性のもになっているという事実があります。大事なのは、なぜ違ってしまったのだろうか。私が思うに、一つはメンバーの立場であり、経緯であり、前提条件でもあり、それがわかれば良いです。立場が違う人がやっているのだから、違う結論になるのは当たり前です。それを見る人がどう考えるか、をわかるように書いてほしいです。自分の意見が入ってしまうという点で、最後の部分は省いていますが、事務局に仕切っていただくべきと思います。最後の結論の部分は、乱暴に書いた部分もあります。ものすごく気を使う部分ですので、修正については事務局に一任します。

参加者：対比表のうち「但し、漁対協答申に対する意見を踏まえて「漁港建設は無理である」旨の方向性が示されている」というのは個人的な意見ですよ。

参加者：確かあったと思いますが、その確認・修正も含めて事務局に一任します。

参加者：これはこういう意見もあった、ということですよ。結論の一つを、結論として扱うのはフェアじゃないと思います。

参加者：私はP7「2.3 ワークショップでの意見」が成果の概要であるべきだと思います。WSは結論付ける場ではなく、ただこのような意見が多数出たとして掲載すべきだと思います。また、成果の概要だと思いますし、結論のところにも入ってくるべきだと思います。

F T：表は書きぶり、事実関係等を事務局で確認の上、再編集し、掲載するというのでよろしくお願ひします。次に成果の概要の書き方として、P7「2.3 ワークショップでの意見」に書かれたことを、成果の概要として書いた方が良いのではないかと、という意見がでましたが、これについてはどうでしょうか。

参加者：P7の2段目【漁港建設の困難さ】「漁港建設が前提であるべきではなく、現時点では経済的にも、また東日本大震災を踏まえると時期的にも無理がある。」について、現時点の問題だと思います。実際、建設するとして

も何年後かの話であり、たしかに現時点では困難であっても、将来的なビジョンとして、困難さはあるができる可能性もある。その辺の意見をまとめて記述した方が良いのではないかと思います。まだまだ、漁港建設をできるという余地を残す意味でも、この辺の記述は非常に難しいものと思いますが、いかかでしょうか。

参加者：賛成です。ここで書かれたことは、受け取り方で右にも左にもぶれるわけです。これは結論というよりは、成果の概要に付記する代表的な意見という形で、成果に準ずるものとして付記する方が良いのではないのでしょうか。私は漁港が早くできれば良いと思っている立場ですが【漁港建設の困難さ】を読んだ時に漁港建設が前提ではなく、という事に理解できます。現時点では経済的にも時期的にも無理があるということも理解はできます。でも言葉の裏に、現時点では、という言葉が入っているということは、将来的な可能性、と好意的に理解することもできるわけです。ただ、無理だという言葉は刺激的だと受け止める人もいます。そういう意味では付記する重要な意見にとどめた方が無難だと思います。

F T：例えば、漁港建設の在り方について様々な議論が積上げられたという例として出す分には良いということですね。もし、お許しいただければ、事務局と相談してWSでこういう意見が出た、と何らかの形で成果として組み入れることはやりますが、書き方については色々な意見が出たので、そこに配慮して書くということによろしいでしょうか。

参加者：それで構わないのですが、将来への含みという点では、六点目の【漁対協答申に対する代替案の検討】に含まれている気がします。成果の概要で、六点から二点「理解が進んだということ」と「水産業の将来ビジョン」がピックアップされている。逆にいうと百や二百の意見が六点にまとまった。それが成果だと思うのですが、事務局はその中の二点については、組合、市民の総意を得られたとお考えなのではないでしょうか。私は、六点とも総意を得られたと思っているのですが。

事務局：構成については私たちでも悩んだところでありまして、確かに成果の概要というタイトルにすると、あたかも二点だけが成果で、次の「2.3 ワークショップでの意見」の六点の扱いが下がって見えてしまうのではないかと悩みました。この二点を取り上げたというのは大きな意味で、二本の柱としてここに入れました。確かに全く知らない方が見た時、この二点が結論と勘違いされ、不本意な方もいると思うので、このところは「成果の概要」と「WSでの意見」をうまく融合させた形にした方が良いと思います。例えば箇条書き等にて大きな成果はこれ、その中の細

かい成果と位置づけはこんな感じといった様にまとめ直してみようと思いますが、どうでしょうか。

参加者：話がブレンドされ、焦点がずれてきてしまったような気がします。私がWSで考えていたのは、漁対協のサポートとしてやったのではなく、市民としてこの事態をどう考えるか、率直にどういう意見を持っているのか、ということでやってきたつもりであって、それをまとめるにあたって、漁対協の答申案をサポートするような方向に直していくというのは、正確ではなく、むしろここで出た反対意見、市民感覚というのを薄めないように整理しないと、何を言っているのかわからなくなる、という事を一番避けるべきだと思います。

参加者：今の意見に賛成です。だからこそ「2.3 ワークショップでの意見」が成果の概要であるということにこだわっているのだから、そこには留意していただきたい。まとめるにしても、成果の概要として二つ出ていますが、少なくとも漁港建設が困難という事以上に、震災によって人命尊重や防災の意識が高まっていることは、漁業関係者を含め総意だったはずなので、そこをしっかりと強調しないと、後から読んだ人が、この場にいた人は、そういう大事な事を考慮しなかったのか、と見られてしまいます。まず、こういう報告書を読むときに、成果の概要しか読まない人はたくさんいるので、その場の参加者が、時期的に重要な事もきちんと認識を持ちつつ議論したのだ、という事は明記した方が良いでしょう。

F T：色々な立場の人が、色々な意見、議論を重ねて検討し、立場を超えて認識が共有されたということが、たぶん成果の一つでした。その中に、どのように認識が共有されたかを盛り込むかという事は、大変大事なことになるので、事務局でもう一度相談して、WSでこういう意見が出たということ的成果の中に盛り込みたいと思います。

それでは、「全体構成」について読みづらいという意見があり、今回事務局もそれを意識して、少しわかりやすいように整理したようですが、いかがでしょうか。具体的意見等がございましたら承りたいのですが「1.はじめに」でこのWSの目的・前提条件について整理し、その後でWSの成果について解説する。その後に盛り込めなかった個別的な意見等について詳しく紹介している。最後にそれを裏付ける資料といった構成です。これでよろしいでしょうか。

参加者：資料、中間報告は別冊の方が良いのではないのでしょうか。最初から分厚いのを渡されると抵抗があります。

事務局：WS各回の資料を加えて頂きたいとの意見もあったので、そういう事で

あれば分厚くなるので別冊にしたいと考えています。

参加者：私は資料を付けて頂きたいと思っているのですが、あれだけの考え方が違う意見が出ているのだから、意見がまとまるなんてことはないです。その点、ある程度まとめるにしても、どこからそれが出てきているかは、資料を見ないとわからないと思います。厚くはなるが、流れを理解する上では資料を付けて頂きたい。ただ、もらった人が読むか読まないかは別問題で、読む人は読むわけで、理解が深まります。

参加者：別冊にしたいというわけですね。

参加者：先程の話、別冊だと一人歩きし、別物になる恐れがありますから、別冊にしない方が良いと思います。

F T：資料編は小さくしてコンパクトにするなどいかがでしょうか。

参加者：添付する資料を第4、5回のWSをどちらかにするという方法もあると思います。

F T：第1回から第3回までの資料も入れてほしいとの意見もありました。では、本編に資料編も参照してほしいという事を明記して、分冊にすることでいかがでしょうか。ではそのように編集したいと思います。

続いて、追加事項の⑰の「人命を守る」という事項については、工夫して盛り込むよう、事務局と相談して対応したいと思います。

最後に⑱の第1回から第3回までのGWの成果も追加してほしいという事については、分冊にして本編に資料編があることを明記する方法で対応したいと思います。以上、ありがとうございました。振り返って追加の指摘事項等ございませんか。

先程、議論の途中で問題提起されましたが、中間報告書をどう考えるか、ということです。皆様から今日までに頂いたご指摘を踏まえて、ブラッシュアップしたことで、大分わかりやすくなったと思います。例えば、この中間報告は今までの過程において中間だったが、ブラッシュアップをして報告書とする認識を持って良いかどうか。実は、来年度の作業をこれから議論していかなければならないが、その議論の内容を付加して、報告書とする考え方もありますがいかがでしょうか。これはこれで今年度の中間報告の中間をとって報告書とすべく、今年度の作業を決着すべきであるとなると、来年度どういうやり方をするかとなります。それも含めて意見がありましたらお願いします。

参加者：メンバーをこのまま継続する方針なら、中間報告という考え方も妥当かと思います。例えば、来年度メンバーを入れ替えるならば、それはそれで違った考え方だと思います。大変失礼な言い方ですが、私は鎌倉市民

で材木座に住んでいますが、漁港は賛成派です。この場を拝見していると、非常に反対派の意見が主導権を握っているようなイメージが強い。こういうことをやっていくと、例えば、将来的なビジョンと書いてあったりしますが、全くそういうものが見えてこない。ただ、造るのか、造らないのか、漁港は目障りだからやめてくれ、という意見に集約されてしまうような気がします。なので考え方を変えて、別に漁港を造る事が良い、というわけではなく、反対なら反対でどういうことに反対なのか、賛成なら賛成でどういうものを造っていったら良いのか、意見を二極的に考えていった方が、進捗度合いも、意見も、簡素で良いものが出てくるのではと思います。なので、その辺を踏まえて報告書にさせていただきたい。

事務局：これは次の議題にも関係する点です。例えば、メンバーについてです。こういったテーマでやりたいから構成メンバーをどうするか、を考えるのですが、今後WSをどのようにやっていくか。私どもで考えている一つは、水産業の振興と地域活性化です。また、水産業のビジョンについて市民目線の意見も伺いたいのですが、それに併せて、鎌倉の海岸の漁業の在り方については何回もやっているのですが、市民目線からこれだけはやめてほしいとか、そういった要望等を再度きちんとまとめていただきたい。多少乱暴な言い方ですが、反対される方の意見をきちっと整理し、確認したいです。逆に漁業者として漁業を継続していくにあたり、解決していかななくてはいけない点は何なのかを、漁業者や皆様に確認したいです。それら両方をクリアした上で早期に解決しなくてはならない課題、それから先程、将来的ビジョンについての含みの話も出ましたが、そういったものを考えていく。そのような内容で来年度のWSは進めていけたらと思います。そのためにはこの場で、賛成・反対の多数決を取るわけではないですが、反対派の方は、市内でも強い意見を持って参加されている方々だと思います。そのような意味では、そういう意見も聞くというのは悪いことではないと思います。そう考えると、私たちが来年度考えているWSは原則、今のメンバーで賛成・反対の両面から意見を頂きながら、双方が納得できるものは具体的に何だろうかを探っていきたいと考えています。

参加者：来年度開催するWSのメンバーについて二つ質問があります。先程、あの方は住民という言葉を使った。それは良くないと言った。今、言っているのは市民の意見を反映するところ言った。東日本大震災は県民、国民といった大きな話だと思います。私のポイントは鎌倉で今まで大きな

事を決めたことの市民参加は、全ての地域から市民を網羅して決めているということ。例えば、45戸のマンションから4名から5名が参加している住民参加は非常に珍しいです。これは事務局がいう賛否を代表している意見であるというのはなかなか難しいと思います。先日の議会で、市議会3会派からWSについて今後どうするのか、という様な質問を市長にされました。市長は同じ返事をしているのを私は聞いていますが、産業振興課はどの様に理解しているか答えてほしい。

2番目は、どうして、ここにいる地域の人達だけでそういう話をするのかという意見もあるが事務局はどう考えているのか。

第二部

③ 今後のワークショップの在り方について

「今後のワークショップの在り方について」について、第一部に引き続き意見交換が行われました。

F T : 今、検討テーマの「第2部 ③ 今後のワークショップの在り方について」に移行していると考えて良いと思います。事務局から返答があればどうぞ。

事務局 : WSは今後どうするのか、という質問に対して、市長は答弁で「様々な角度からWSで議論を重ねて頂いている。ただ、十分な協議を行っていただくため、今後も引き続き行っていきたい」という答弁をさせていただきました。平成24年度予算を要求する際に、本年度運営中に「5回のWSでは少ない、十分に議論すべきである」という意見があり、副市長、市長と調整したところ、市長から「議論を深めていく上で、予算が必要であれば要求してほしい」という事で、WSを継続する400万円を予算要求しました。そういう背景を踏まえ、市長は来年度も議論を深める上で継続していきたいと答弁しました。

参加者 : 市長は同じメンバーで継続しろ、とは言っていない。こういう意図があるものをやるにあたって市長は、基本構想案までできれば良いと思っている、と言っています。その次に10月15日に開催した第2回WSの資料3のP2下図中には「ワークショップ」「漁対協（報告・答申）」「市民からの意見」とあり、「ワークショップ」は独立した矢印で「意見の集約・整理」というところに直進しています。「市民からの意見」とは明らかにWSに参加していない市民からの見解というもので「意見の集約・整理」に入っているのです。これは変更されていませんよね。市はこの通り動くのだと理解していますがよろしいでしょうか。

そうすると、「意見の集約・整理」の横に「集約した意見を整理し、市としての方向性を見極める」と書いてあるが、私は市としての方向性・結論を出してほしいです。なんでもかんでも「市民だ、市民だ」というのは、事務局のはっきりとした意図です。なぜ産業振興課にこれがあるのか、なぜ環境じゃないのか、環境の様な要素であれば、多くの市民から参加したいという意見が沢山来ている。事務局は、メンバーはそのまま継続すると書いてあり、そういう意見も出たかもしれないが、最初我々に約束された事とこれまで行われてきた事はずいぶん矛盾していることについてどうお考えですか。きちんとした説明を頂かない限り、私は承服しません。

事務局：確かに、本WS開催にあたり全地域を対象として募集はかけました。近隣だけではなくそれ以外の地区からも来て頂いています。確かに関心の高い方が集まっているのは事実だと思っています。ただ、私どもとしては、この問題に対して手を挙げていただいた方の意見は、一つの大きな意見として取り込まなくてはいけないと思っています。最も良いのは本WSが終わった後に、例えば、次のステップのものを考えるというのは手段としてはあると思います。ただ、現時点ではこのWSの結論はきちんと出すべきだろうと、来年度は継続メンバーで深く議論した方が良いだろうという考えでいます。

参加者：論理が繋がっておらず、思い込みで進めているような気がします。FTが、中間報告書と報告書は違うと言いましたが、なぜ同じメンバーで続けなくてはいけないのでしょうか。

事務局：先程、説明しましたが、このWSは平成23年度事業として、行政側で認知されたものですが、もっと議論を重ねたいとの要望に対して、二か年で予算を取って継続していくと行政内部で理解が得られたものです。そのためここで一回切って、二つ目のWSを再度開始するとは認知されていないのでご理解頂きたい。

参加者：血税を払っているのは市民であり、ここに出てきていない市民も沢山いる。漁業者も業者として税金を納めながらやっている。メンバーを変えろという事がなぜいけないか、なぜ良いかということのクリアなポイントは、東日本大震災があり環境が変わり、国民の立場、県民の立場、市民の立場で考えようといったときに、住民の意見だけに左右されるというのは、何らかの不公平があるのではないかと思っている市民が沢山います。メンバーは公募すれば良いと思います。

参加者：ここで提案ですが、継続性という問題もあるので、継続したいというメ

ンバーは引き続き参加する。それに加え新規のメンバーも募集する。例えば、WSに参加する市民というのはごく少数だと思う。私が知っている地域の住民ではない市民も「優先順位が違うのではないか、税金をそこに使うのか」という人もいるし、逆に進めた方が良いという人もいるかもしれないし、すごく多様だと思います。なので、WSも大事だが、例えば、インターネット等、多数の意見を集約できる方法を検討・併用されてはどうかと思います。

WSについては、今回は漁港にかかるWSということで、地域住民や利害関係者が集まり、このような話し合いをしました。そこで出た結論は、水産業振興や地域活性化など範囲が広がっていると思います。ですから、継続メンバーにプラスして、水産業振興や地域活性化という観点から広く新規メンバーを加え、なおかつWS以外の意見が集まるような仕組みを行政で考えていただく、そうすれば広い意見を集められると思います。

F T : 基本的にはこの中間報告書はブラッシュアップを重ねて今年度で報告書に変わる。来年度は事業的には継続だが、内容的には新しいテーマを取り込む。その時には新しいメンバーを入れ、継続する人は残る。WSに参加できない人の意見も集める仕組みを作るということですね。他にいかがでしょうか。

参加者 : 個人的な意見です。ここまで、ある程度の成果が出たことは嬉しく思っているのですが、同じ様に集まって、テーブルを囲み、話をする仕組みでこのまま続けていくのには疑問が残ります。当初出たように現地視察など、もっと行動的なWSを提案したいです。例えば6回やるのであれば、3回は現地で行うなどもっと五感を使って体験するというWSに変えた方が良いのではないのでしょうか。

それによりメンバー構成も決まってくると思います。海岸線近くに住んでいない人にも、海岸線での漁業を見て頂く機会も設けたいし、鎌倉市全体からメンバーを募り、現地で体験する。それをメインにWSを変えて頂ければと思います。

F T : 市としては、メンバーを変えることに抵抗はありますか。

事務局 : 今のお話はこの場で、即答はできないので、持ち帰り検討させて頂きたい。結果は併せてご報告させて頂きます。現地見学会については我々も実施したいと思います。

参加者 : 現地見学会ではなく、現地でWSを行うということです。

事務局 : わかりました。

参加者：現地の話には賛成ですが、事務局にお願いしたいのは現地で何を見るか、見て何を話すか等の前提条件、資料、情報等はなるべく事前に出して頂きたい。例えば、浜の現状をみて、高潮・津波被害額がどの程度で、選択肢としてはどんなものがある、それぞれこれぐらいの費用がかかるとか、逗子マリーナのキャパがどれぐらいで、そこに動かすのは難しいとか、マリーナとの連携にはこういう課題があり、予算はこれぐらいとか、そういう考える材料とか情報を事前に示した上で見ていく様にしないと、なかなか有効で効果的な議論はできないのではないかと思います。その辺の準備を是非お願いしたいです。

事務局：言われることは確かだと思います。私どもと皆さんが考えていることと両方あると思うので、それをキャッチボールで解決していきたい。皆様からご提案頂ければ対応したいです。

参加者：事前の資料についてですが、現場を見た印象が限定されてしまいます。それにばかり視点が集まってしまうのではないかと懸念される。逆に、行政抜きで手弁当でも良いのではないか。例えば、他人の敷地に入るなどするのは、行政にお願いして調整が必要ですが。そのように市民主導で行い、皆さんの意見を聞いたほうが、色々意見が出て意見を交わせると思います。

参加者：行政が出てくると、どうしても責めたくなる。たまには組合主導の話合いも良いのではと思う。

参加者：今までの意見で、現時点では漁港は無理であろう、と同時に台風被害、安全面の問題があるという認識ができたことは本WSの成果だと思います。これについて、これ以上議論する必要はないと思います。これについて、何ができるかの提案・アクションは市でやって頂きたいと思います。これは議論ではなく実行に進めて頂きたいと思います。

メンバーが偏っているという見方もあると思います。出ているのは地域住民、漁業者、マリンスポーツ関係者その他いると思うのですが、地域住民、マリンスポーツ関係者は環境面を気にしています。このWSを通しての一つの大きな意見は鎌倉湾を変える必要があるのか、という意見は、偏りがあるろうともある程度のまとまった意見ではあると思います。これは確実に市民意見として主張してほしいです。

参加者：市に主導していただきたいという点ではなく、市に準備をしていただきたいという点。議論する上で、より効率的により良い議論ができるような情報を事前にしっかりして頂きたいという点でお願いしました。

F T：市のイメージでは資料4「今後のワークショップの在り方について」の

うち、「2 ワークショップのスケジュール」のように第4、5回で最終報告書とありますが、皆様の認識では今年度、この中間報告書をブラッシュアップして報告書とする。継続メンバーに加え、テーマに応じたメンバーの多少の入れ替えを念頭に考える。やり方についても、現地にいたり、専門家を呼んだりして意見を交わしたい、とのことでした。

検討テーマについては、資料4に市の提示案があります。メール等でも構いませんのでご意見がある方は返信頂きたいです。市の予算が通ればですが、6月くらいスタートで、予算的には5回分くらいとのこと。6月にスタートした時に、どうするかを議論しては、それだけで時間がたってしまうので市と皆様で連絡をとり合って頂きたいです。6月にスタートの時点でこの問題に取りかかれるように、市にも準備をお願いします。議論不足ですが、言い残した事等ございましたら、市にメール等でご連絡頂きたい。

終わりに

事務局から閉会挨拶を行いました。